

# 大阪城

2025

2/17 (月)

14520 号

全港湾  
西成令会

2x47  
6647-  
4947

春は近くまで来ているが、今週はまだ厳寒に  
続くようです。コロナインフルエンザ、花粉症などに  
気をつけながら、春に向けた日取後の峠をのり超え  
て行こう。

日本も巻き込み、世界の経済社会は、春の嵐が  
吹き荒れている。アメリカ、トランプ政権発の関税・  
貿易戦争がひきおこしている関税の嵐です。

中国とはすでに関税貿易戦争ははじまっている。

4/2にむけて、日本の自動車にも関税をかける動きに  
なっている。また、それとは別に、全この輸入の00に日本が  
アメリカの00にかけている関税と同じ率の関税をかける  
ともいっている。日本経済には打撃になるし、当の  
アメリカも物が高くなり、国内のインフレがますます  
物価高インフレになり、アメリカ人の不満がトランプ  
政権に向う構造に入まってくる。

78歳の高齢大統領は、自分一人の確信だけはある  
らしく、科学的合理的意見は聞かないようにみえて、  
自分の思い込みで独裁的につっぱはっているようだ。  
ウクライナも一旦で停戦ノットたてまえ、プーチンと  
電話して、近々サウジアラビアで会おうとかいう。ウクライナ  
のゼレンスキー大統領はかやの外だし、EUとも対立は  
じめたりしている。衰退はじめたアメリカのトランプ政  
で、世界の経済社会が右往左往し、流動をはじめている。

★  
昨年7/3に発行された一万円札の顔。渋沢栄一は日本の資本主義の父といわれている。渋沢は元々は徳川幕府方の出身なものだから、実力はあつても戦前、薩長・天皇権力の社会では、そして戦後も、評価は厳しかったと思われれます。日本社会も少しづつ変化してきている流れの中の一万円の渋沢かと思えます。

コンピュータ、インターネット、ケイタイ、スマホ、最近では人工知能(AI)、日本社会も土台のあたりからかわってきているようです。そんな社会の中で生れる政治も変化するのは当然かと思えます。

昔、バブルがはじける2年ほど前、1980年代までは、資本家と労働者の賃金問題には、民間と民間の問題なので、公的権力や政府がとやかく口出しするのは良くない。何もしない、言わない、という政治でした。それが、この最近では、経営団体には賃上げしてくれとか、郵政はじめ、春斗も「官製春斗」とか言われている。また、今の国会では、高校の授業料無償化や学校給食の無償化が議論されはじめている。昔ならは無償化を言ったり、それは「社会主義」のやり方だと保守派の人は反対していたと思われれます。時代と社会が変化してきているという事でしょうか。

自民党は、党の組織の中に、学使問題を専門にする部署をつくるよとかの考え、たと報道をやっている。しかし、アメリカ国内のせにせよ、激論から見れば小さなことかもいけません。